

令和5年度あま市総合教育会議 意見交換に係る提案書

課 名

学校教育課

【テーマ】

不登校問題等の相談や対策拠点について

【背景、要旨、意見など】

本市では、甚目寺会館1階に「あま市教育相談センター」を設置しており、その中に、「教育相談室」及び「適応指導教室ビリーブ」を置き、教育上の悩み・いじめ・不登校問題等の教育相談に関すること、不登校児童生徒の自立及び学校生活への自発的復帰を支援するための適応指導に関すること、学校が行う生徒指導等への援助、指導及び研修に関することを事業としており、不登校対策の拠点となっている。

現在、本市の長期欠席者数は300人を超え、全国平均を上回っていることから、ますます必要不可欠な施設となっている。

しかし、『あま市公共施設再配置計画』において、第1期（令和8年度）までに民間譲渡または解体が予定されているが、その代替施設案が提示されていないことから、今後もあま市教育相談センターが確実に継続運営できるよう代替施設等を考慮していただきたい。

<提案>

前述のとおり、不登校児童生徒数が年々増加していることに比例して、ビリーブの利用者数も年々増加している。『あま市公共施設再配置計画』では、民間へ譲渡された施設を継続利用しつつ、施設の再配置により生じた空きスペースへの移転を検討することとなっているが、教育委員会としては、甚目寺会館解体後、新たに本市の総合的な教育の拠点となる施設を建設することが望ましいと考える。

また、現在ビリーブに通所する多くの児童生徒は甚目寺地区から通っているが、七宝地区・美和地区の児童生徒もおり、距離が遠いため、七宝地区・美和地区にも同様な施設が創設されないかとの相談も受けている。

『あま市公共施設再配置計画』通り移転となるのであれば、七宝地区については、シルバー人材センター事業の統合により、「七宝高齢者生きがい活動センター」に空き部屋が出ると聞いているため、その場所を活用したい。

甚目寺地区については、デイサービス事業の統合により、「甚目寺地域福祉センター」に空き部屋が出ると聞いているため、その場所を活用したい。

美和地区についても、可能であれば、「美和総合福祉センターすみれの里」などの活用を検討したい。